

## V142a      **Cycle 1 User Support and Status**

西合 一矢 (国立天文台), ほか ALMA 東アジア地域センター一同

2012年5月から7月にかけてアタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計 (ALMA) の初期科学運用 Cycle 1 のプロポーザル募集が行われた。初期科学運用 Cycle1 では、来年1月からの10ヶ月の共同利用観測期間を予定している。ALMA は建設段階にあり、初期科学運用段階では、装置仕様や観測モードには多くの制限が存在している。しかし、ALMA は、すでにサブミリ波帯で世界最高の感度と空間分解能の装置である。ALMA 東アジア地域センター (EAARC) は、この地域から、ALMA へより多くの観測提案がなされ、より多くの科学的な成果が出されるために各種のサポートを行っている。Cycle1 のプロポーザル募集に際しては、各拠点大学にて Town Meeting と呼ばれる 1 day チュートリアルを開催し、Cycle1 Capability 説明、ALMA Observing Tool を用いてのプロポーザル作成体験、CASA を用いた干渉計シミュレーターのデモンストレーション&チュートリアルを行った。それ以外にも、ユーザーサポート活動としては、ALMA Workshop のサポート、face to face や helpdesk を通しての個別対応 (質問など)、Cycle0 観測者に対しての観測プログラム作成・データ解析サポートなどの活動を精力的に行っている。本講演では、これらの EAARC の各種ユーザーサポート活動の紹介と報告を行う。また、それらのサポート活動の結果として Cycle1 におけるプロポーザル投稿状況や統計を可能な限り紹介する。